

- ▶ 大阪市は、森林を保有していないことから、大消費地として木材利用の拡大や普及啓発活動をとおして、森林整備の促進を間接的に支援してまいります。
- ▶ 令和4年度においては、保育園や小中学校など次世代を担う世代が木材に触れ合うことを目的に、木製品による保育園の備品の整備、小中学校の椅子や机の整備を実施しました。
- ▶ また、間伐材等を利用した木工細工体験教室を実施し、椅子などを製作して区役所内で活用する他、身近な自然での森林環境教育につながるイベントを開催しました。
- ▶ さらに、木材利用の普及啓発の一環として市立図書館において、関連図書を整備しました。

□ 事業内容

子どもたちと体験するSDGs

- 幅広い年代の子どもたちと保護者が、森林整備や木材の循環利用の必要性、森林の有する公益的機能、地球環境問題などを学習し、また、丸太などの木材の存在感を感じられる展示や木工などの屋内型の体験イベント「ひがしなり環境・SDGs体験フェスタ」を実施した。

【事業費】 7,276千円（うち譲与税7,276千円）

【実績】 12月24日（土）、25日（日）10時～16時実施  
 体験ブース数 14 24日 622名参加、25日 555名参加



□ 事業スキーム

公募型プロポーザル事業

□ 工夫・留意した点

- 間伐材等を利用した木工細工体験教室を実施し、椅子などを製作して区役所内で活用する他、身近な自然での森林環境教育につながるイベントを開催した。
- 体験ブースは、幼児から中学生までの年齢層とその保護者が参加できる本格的な木工や間伐材を利用した簡単な木工細工のほか、木のおもちゃで遊べる広場を用意した。
- 体験にあたって、参加者に間伐材の利用や、森林環境整備の重要性などについて、DVD視聴や説明をしてからの作成とし、森林環境や林業に関する理解促進に寄与するものとした。
- 作成した成果物等の一部は持ち帰りとし、家庭での使用により木材製品の利用促進に寄与するものとした。

□ 基礎データ

①令和4年度譲与額：310,620千円	②私有林人工林面積（※1）：0.00ha
③林野率（※1）：0.00%	④人口（※2）：2,752,412人
	⑤林業就業者数（※2）：157人

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2国勢調査」より